

## ダイハツ工業とは

私たちは常にお客様に寄り添い、本当に求められるものをかたちにしてきました。

使いやすさを徹底して追求し、環境にも経済性にも配慮した「負担の少ない廉価なモノづくり」は、今も変わらず受け継がれています。

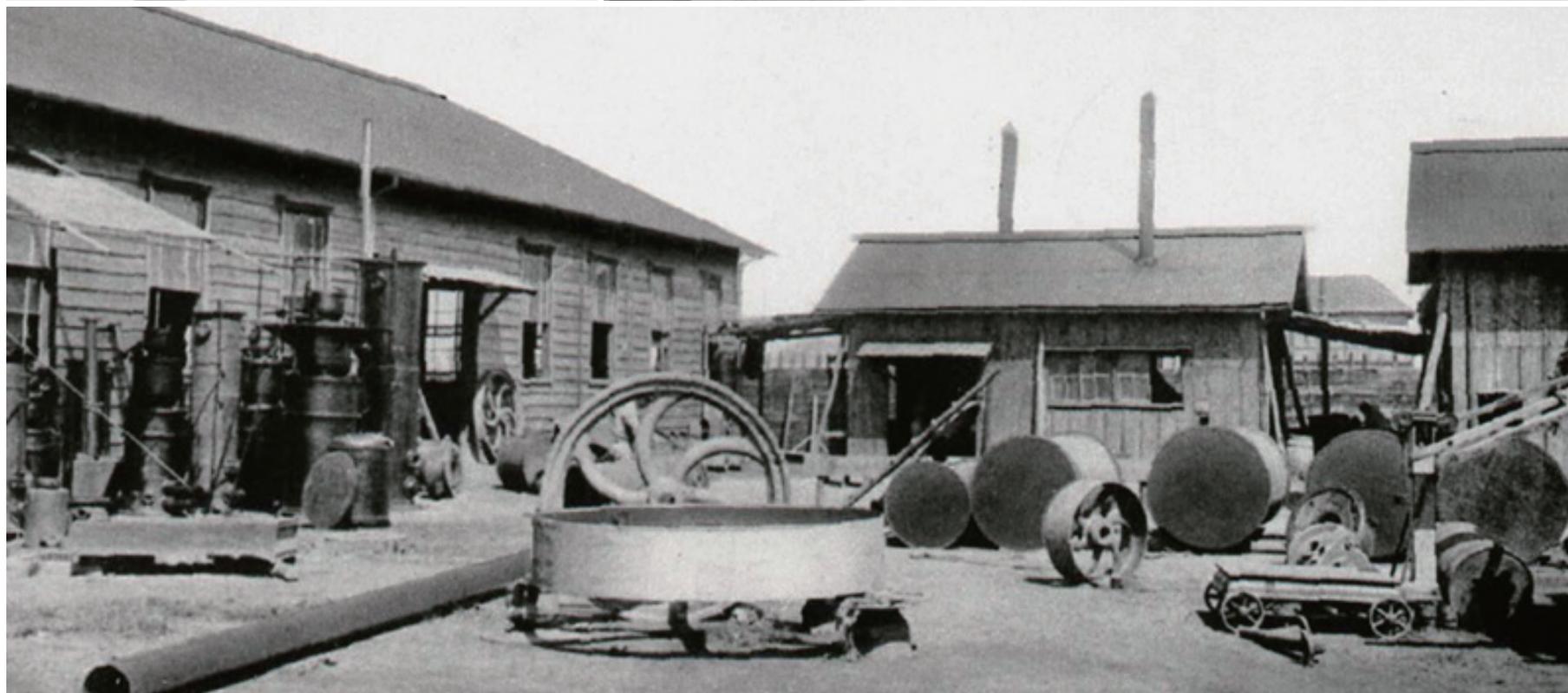
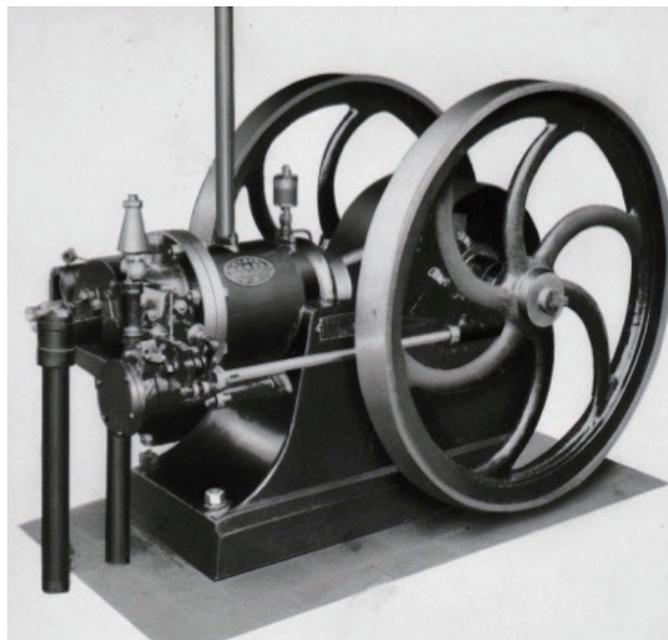
この根底にあるのが、「敷居を下げ、裾野を広げる」という私たちの考え方です。

地方にお住まいの皆様や女性、高齢者、エントリーユーザー、新興国の方々など、より多くのお客様に安心して笑顔で使っていただけるよう、軽自動車やコンパクトカーの開発・製造に取り組んでいます。

それは、多くのお客様の暮らしを支えることであり、国内・新興国の産業への貢献にもつながっています。

- 5 企業理念
- 6 ダイハツ工業の歩み
- 7 魅力・強み
- 9 At a Glance
- 10 国内事業内容
- 11 海外事業内容

SECTION





## ■ 企業理念

使命 Mission

### お客様に寄り添い、 暮らしを豊かにする

それは、1907年の創業以来、ダイハツが大切にしてきた変わらぬ想いです。

当社のスモールカーは、環境に優しく、  
お求めやすい価格と使いやすさで、人々の暮らしを支えてまいりました。

これからもダイハツは、それぞれの地域、お客様一人ひとりの生活に、  
真摯に向き合い、自分らしく軽やかなライフスタイルを実現できる  
製品・サービスをお届けしてまいります。

心得 Value

お客様のより良い毎日を考えます  
自らの行動で、笑顔を増やします  
互いの優しさで、ともに歩みます  
現地現物で、正しい仕事をします  
知恵と工夫で、進化を続けます



SECTION 1

ダイハツ工業とは

5 企業理念

6 ダイハツ工業の歩み

7 魅力・強み

9 At a Glance

10 国内事業内容

11 海外事業内容

トップメッセージ

SECTION 1

ダイハツ工業とは

SECTION 2

ダイハツ工業のストーリー

SECTION 3

ダイハツ工業の  
サステナビリティ

SECTION 4

環境

SECTION 5

社会

SECTION 6

コーポレートガバナンス

SECTION 7

データ



5



# ダイハツ工業の歩み

主な車種

**1957年**  
軽三輪自動車「ミゼット」  
コンセプトは「小回りがきいて取り扱いに便利、かつ経済的」戦後の三輪自動車業界をリード

**1966年**  
軽乗用車「フェロー」  
「小型に乗って軽で走る」ホームセダン。軽自動車市場拡大の火付け役

**1969年**  
小型乗用車「コンソルテ」  
コンセプトは「高性能で経済的な乗用車」トヨタ自動車との提携第一号車

**1995年**  
軽乗用車「ムーヴ」  
コンセプトは「広くて楽しいマルチユースワゴン」軽トールワゴンの代表車

**2002年**  
軽スポーツカー「コペン」  
「誰もが気軽に楽しめる本格的オープンスポーツカー」

**2011年**  
軽乗用車「ミライース」  
「低燃費」「低価格」「省資源」を極めた第三のエコカー

**2021年**  
小型SUV「ロッキー」にe-SMART HYBRIDを搭載  
小さなクルマに最適なハイブリッドシステムを搭載

**2016年**  
小型乗用車「トール」  
軽を基点とした小型車づくりで「見た目はコンパクト、室内は広々」を実現

**2019年**  
「DNGA」第1弾 新型「タント」  
DNGA (Daihatsu New Global Architecture) 採用による高い基本性能と、スマートアシストで全方位の安全・安心をお客様のお手元へ

1900年代～  
創業～三輪車時代  
国産初のエンジンから始まった挑戦  
創業の精神と三輪自動車での拓いた原点

1960年代～  
軽や小型車・海外事業の発展  
軽とともに歩んだ半世紀  
グローバルに広がるモビリティの可能性

2010年代～  
トヨタ完全子会社化  
新たなステージへ、トヨタグループとしての進化  
グループ連携による企業体質強化と価値創出

2020年代～  
100年に一度の変革期

ダイハツ工業の歩み

**1907年**  
発動機製造(株)創立  
「国産の内燃機関を開発する」という志のもとに会社設立。国産第一号の発動機を販売開始

**1967年**  
トヨタ自動車と業務提携  
トヨタグループの中で軽自動車を中心にスモールカー分野を担うこととなる

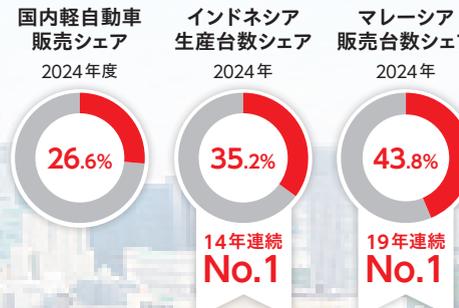
**1980年**  
ダイハツ・マレーシア設立  
販売強化を目的に「ダイハツ・マレーシア」設立

**1978年**  
ダイハツ・インドネシア設立  
現地生産推進のため、PTダイハツインドネシア(DI)を設立。ハイゼットのキャビンなどを生産

**1993年**  
プロドゥア設立  
マレーシア政府の第二国民車プロジェクトの実現に向け、新会社「プロドゥア」を設立

**1992年**  
ADM設立  
「ADM (PTアストラダイハツモーター)」を設立。インドネシア政府の自動車国産化政策に貢献

**2016年**  
トヨタ自動車による完全子会社化  
グループ一体の協業体制のもと、「もっといいクルマづくり」を目指し、トヨタグループのスモールカー領域を担う存在としても成長していく



自動車産業の歩み

●日本の産業革命期

●戦後の復興と国内モーターゼーションの幕明け

●高度成長期モータリゼーションの加速  
～自動車は一家に一台の時代へ

●排ガス規制やオイルショックによる原油高騰  
～軽自動車下火の時代

●女性の社会進出などを背景としたセカンドカーとしての軽自動車需要の高まり

●軽自動車の規格変更  
ハイト系・スーパーハイト系など多様な軽の出現

●世界的な環境意識の高まり  
低燃費の軽自動車に“エコカー”としての注目

●CASE<sup>※1</sup>、MaaS<sup>※2</sup>、カーボンニュートラルへの対応加速

※1 CASE : Connected (コネクテッド)、Autonomous/Automated (自動化)、Shared (シェアリング)、Electric (電動化) の頭文字をとった造語  
※2 MaaS (Mobility as a Service) : モビリティ (移動) を一つのサービスとして捉えた概念

## SECTION 1

### ダイハツ工業とは

5 企業理念

6 **ダイハツ工業の歩み**

7 魅力・強み

9 At a Glance

10 国内事業内容

11 海外事業内容

トップメッセージ

SECTION 1  
ダイハツ工業とは

SECTION 2  
ダイハツ工業のストーリー

SECTION 3  
ダイハツ工業のサステナビリティ

SECTION 4  
環境

SECTION 5  
社会

SECTION 6  
コーポレートガバナンス

SECTION 7  
データ



# 01

## お客様に寄り添うクルマづくりを目指し、暮らしを支えるクルマをお届けする企業姿勢

市場の声に丁寧に耳を傾け、徹底した市場調査を通じてお客様のニーズを的確に捉え、日常や地域で本当に求められている「安全・安心なスモールカー」を、使いやすさと親しみやすさを大切にしながら、開発・ご提供しています。



# 02

## 環境にやさしく、お客様にちょうど良い製品を廉価でお届けするモノづくり

多くのお客様に選んでいただけるよう、実使用シーンを徹底調査し“良品”を追求しています。知恵と工夫を重ねて徹底的に合理化を図ることで、それを手に取りやすい価格で実現しています。このようなモノづくりを通じて、社会のすそ野を支え・広げる存在であり続けます。



SECTION 1

ダイハツ工業とは

- 5 企業理念
- 6 ダイハツ工業の歩み
- 7 魅力・強み**
- 9 At a Glance
- 10 国内事業内容
- 11 海外事業内容

トップメッセージ

SECTION 1  
ダイハツ工業とは

SECTION 2  
ダイハツ工業のストーリー

SECTION 3  
ダイハツ工業の  
サステナビリティ

SECTION 4  
環境

SECTION 5  
社会

SECTION 6  
コーポレートガバナンス

SECTION 7  
データ



■ 魅力・強み

## 小さなクルマに大きな価値を 生み出すために磨き続けてきた技術

制約が厳しい「スモールカー」の中で、ダイハツの基本思想である「SSC(シンプル・スリム・コンパクト)」や「先進技術をみんなのものに」という想いを大切にしながら、知恵と工夫を重ねながらダイハツならではの開発・生産技術を培ってきました。

03

## スモールカーで日本・東南アジア・新興国の 暮らしや成長に貢献

トヨタグループの一員としてトヨタの経営資本を活用しながら、トヨタ・ダイハツ共通戦略のもとスモールカー領域はダイハツが主体となって、競争力のある商品を国内外へと展開しています。日本をはじめ、インドネシア、マレーシア、新興国市場で、着実に競争力を高めています。

04

## 挑戦を応援し、 助け合える、風通しの良い職場づくり

若手のアイデアやチャレンジ精神を大切にする風土があります。また、一人ひとりの担当領域が広く、さまざまな経験を積むことができます。部署間の垣根が低いため意思決定が迅速で、垣根を超えた協力体制と活発なコミュニケーションを通じて、ワンチームで業務に取り組んでいます。

05



### SECTION 1

## ダイハツ工業とは

- 5 企業理念
- 6 ダイハツ工業の歩み
- 7 **魅力・強み**
- 9 At a Glance
- 10 国内事業内容
- 11 海外事業内容

トップメッセージ

SECTION 1  
ダイハツ工業とは

SECTION 2  
ダイハツ工業のストーリー

SECTION 3  
ダイハツ工業の  
サステナビリティ

SECTION 4  
環境

SECTION 5  
社会

SECTION 6  
コーポレートガバナンス

SECTION 7  
データ



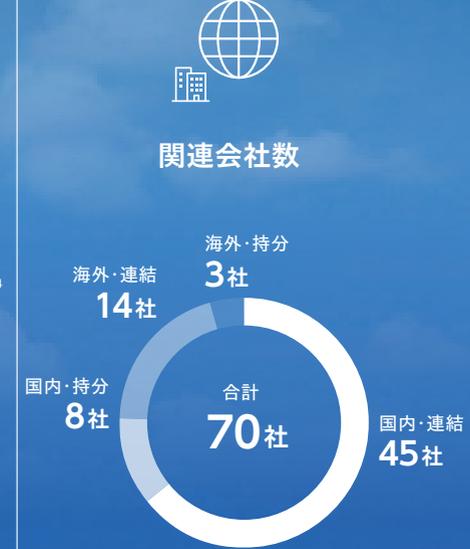
8



# At a Glance ～数字で見るダイハツ～

GRI > 2-1

創立  
**1907年**  
資本金  
**284億円**



※1 ダイハツ開発車の世界生産台数  
約200万台の内数  
※2 OEM車・受託生産車台数を含む  
※3 プロドゥア車の生産台数を含む

※4 登録・届出台数ベース  
※5 小売台数ベース  
※6 プロドゥア車の販売台数を含む

## SECTION 1

### ダイハツ工業とは

- 5 企業理念
- 6 ダイハツ工業の歩み
- 7 魅力・強み
- 9 At a Glance**
- 10 国内事業内容
- 11 海外事業内容

#### トップメッセージ

#### SECTION 1 ダイハツ工業とは

#### SECTION 2 ダイハツ工業のストーリー

#### SECTION 3 ダイハツ工業の サステナビリティ

#### SECTION 4 環境

#### SECTION 5 社会

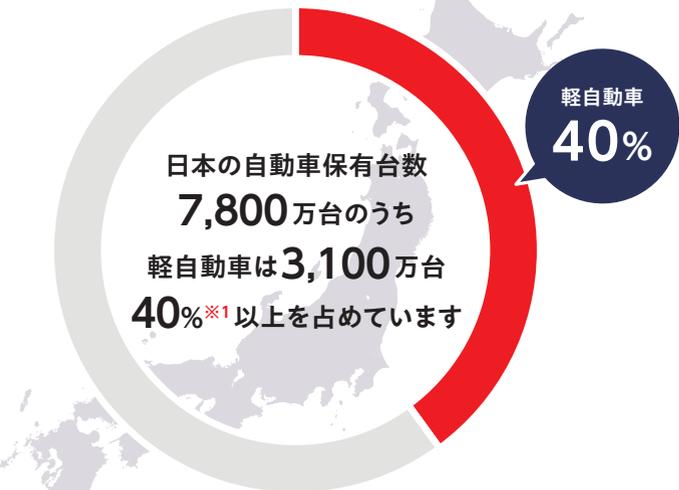
#### SECTION 6 コーポレートガバナンス

#### SECTION 7 データ

## 国内事業内容

# 「ライフライン」としての軽自動車へのこだわりと、軽を基点とした小型車づくり

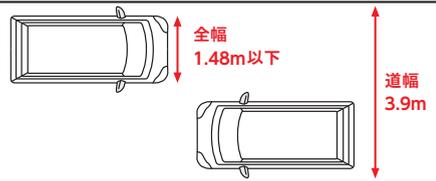
### [ 国内の事業環境 ]



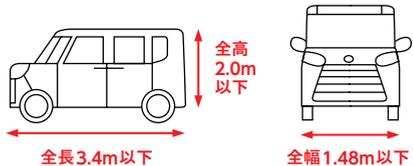
※1 2024年6月末時点、一般財団法人 自動車検査登録情報協会資料より

#### POINT

日本の道路の85%※2は  
道幅平均3.9mの市町村道

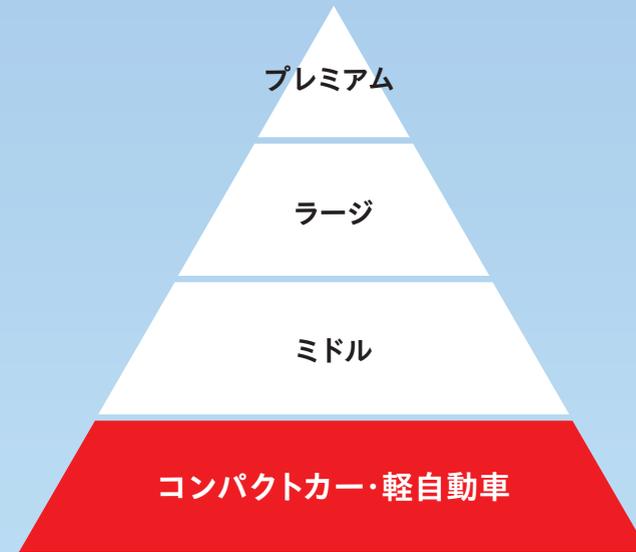


#### 軽自動車規格 排気量660cc以下



※2 2022年3月末時点、「道路統計年報2023」国土交通省資料より

## スモールカー領域で事業を展開



#### 軽自動車



ミライース

#### 小型車



ロッキー

GRI > 2-1, 2-6

### 国内事業拠点



誕生以来、日本の成長とともに進化を続けてきた軽自動車。公共交通機関の利用が難しい地方部では、軽自動車の普及率が「一家に1台」を超える地域もあり、今や生活に欠かせない「必需品」として広く根づいています。日本特有の狭い道路でも取り回しのしやすいコンパクトなボディ、そして低燃費で経済性も高い軽自動車は、「ライフライン」として日々の暮らしや仕事を支えています。

さらに、軽自動車づくりで培ってきた技術やノウハウは、スモールカーの開発にも展開され、より幅広いお客様のニーズに応える製品づくりへとつながっています。

## SECTION 1

### ダイハツ工業とは

- 企業理念
- ダイハツ工業の歩み
- 魅力・強み
- At a Glance
- 10 国内事業内容**
- 海外事業内容

#### トップメッセージ

#### SECTION 1 ダイハツ工業とは

#### SECTION 2 ダイハツ工業のストーリー

#### SECTION 3 ダイハツ工業のサステナビリティ

#### SECTION 4 環境

#### SECTION 5 社会

#### SECTION 6 コーポレートガバナンス

#### SECTION 7 データ

## 海外事業内容

GRI > 2-1, 2-6

日本で磨き上げた良品廉価なクルマづくりで、世界中の人々の暮らしを支えています。

### ① 新興国でのクルマの普及を促進

日本の軽自動車ですべて培ってきたスモールカーづくりの技術やノウハウを新興国にも展開し、お求めやすい価格で、その国のお客様に喜ばれるクルマを提供しています。初めて新車を購入される若い世代をはじめ、多くの方にクルマをお届けすることで、すそ野を広げています。

### ② 現地の自動車産業の発展に貢献

現地のパートナー企業と連携し、本格的な生産工場を立上げるとともに、開発や部品調達の現地化を積極的に推進し、雇用を創出、産業発展に貢献しています。さらに、その国のお客様に寄り添ったクルマづくりを目指し、デザインや開発などローカルスタッフの育成にも力を入れています。

中近東

アジア

オセアニア

中南米

## お客様に寄り添うモノづくりを海外へ

ダイハツは、トヨタグループの中で新興国向けの小型車事業を担っており、特に、インドネシアとマレーシアに現地生産・開発拠点を構え、事業を展開しています。

ダイハツが開発したクルマは、インドネシアのアストラ・ダイハツ・モーター社 (ADM)、マレーシアのプロドゥア社に加え、トヨタグループの拠点 (タイ、インドネシア、マレーシア、ベトナム、台湾) でも生産され、東南アジアを中心に約80の国や地域でご利用いただいています。

 **インドネシア**  
人口:約2.8億人 (世界4位)



<インドネシア生産拠点>

- PT Astra Daihatsu Motor (ADM) ※3
- PT Daihatsu Drivetrain Manufacturing Indonesia (DDMI) ※4

累計生産  
**900万台**  
達成  
(2025年8月)

生産台数※1  
シェア  
**No.1**  
(2024年実績)

販売シェア  
16年連続  
**2位**

 **マレーシア**  
人口:約3,500万人 (世界47位)



<マレーシア生産拠点>

- Perodua Manufacturing Sdn Bhd. (PMSB) ※3
- Perodua Global Manufacturing Sdn. Bhd. (PGMSB) ※3
- Perodua Engine Manufacturing Sdn. Bhd. (PEMSB) ※4
- Daihatsu Perodua Engine Manufacturing Sdn. Bhd. (DPEM) ※4

販売台数※2  
シェア  
**19年連続**  
**No.1**  
(2006年~  
2024年)

※1 OEM車台数を含む ※2 小売台数ベース、プロドゥア車の販売台数を含む ※3 自動車の製造 ※4 自動車部品の製造

## SECTION 1

### ダイハツ工業とは

- 5 企業理念
- 6 ダイハツ工業の歩み
- 7 魅力・強み
- 9 At a Glance
- 10 国内事業内容
- 11 海外事業内容

トップメッセージ

SECTION 1  
ダイハツ工業とは

SECTION 2  
ダイハツ工業のストーリー

SECTION 3  
ダイハツ工業の  
サステナビリティ

SECTION 4  
環境

SECTION 5  
社会

SECTION 6  
コーポレートガバナンス

SECTION 7  
データ



11

